

すずな

KIZUNA

6

2020年
令和2年

特集 男女共同参画

それぞれの個性と
能力を発揮して



INDEX

- 2 「一人の人間として何ができるか」
川石 光佐さん（灘菊酒造株式会社 代表取締役社長・杜氏）
- 3 「多様性のなさは同質性のリスクにつながる」
白河 桃子さん（昭和女子大学 客員教授）
- 4 「OS入れ替えて、父親であることを楽しもう」
安藤 哲也さん（NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事）
- 5 「女性の人権を守るために～DV防止に向けて～」
戒能 民江さん（お茶の水女子大学 名誉教授）
- 6 「女性が能力を活かして、活躍できる社会へ」
上田 理恵子さん（株式会社マザーネット 代表取締役）
- 7 「沈黙を強いる社会を変えたい」
藪本 雅子さん（フリーアナウンサー）
- 8 情報ぶらざ



ひろげよう こころのネットワーク



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット はばタン

兵庫県では、女性の活躍を一層進めるとともに、男女がともに、いつでも、どこでも、いきいきと生活できる社会をめざして、「ひょうご男女いきいきプラン2020」に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

本号では、男女が意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる男女共同参画社会の実現に向けて考えてみましょう。

ひょうご男女いきいきプラン2020

検索



一人の人間として 何ができるか

人権 Interview

インタビュー

A

Q

三人姉妹の三女として生まれましたが、姉たちは別の道へと進み、「私が帰らないとまずいのかな」とそんな思いで大学卒業後すぐに灘菊の仕事に就きました。大学で醸造学を学んでいたこともあり、酒造りは面白く、ベテラン杜氏さんのもとで、多くのことを学びました。しかし、2004年頃の日本酒業界は非常に厳しく、外部の杜氏を雇わないことになり、この状況を知った蔵元の先輩が、「一緒に協力し合って酒造りをしよう」と声をかけてくださいました。ベテラン杜氏のいな

杜氏になったきっかけは

南部杜氏・蔵人さん10名くらいが酒造りに来られていました。男所帯はよく食べるという印象で、母や祖母の女性たちは食事のお世話をしており、その手伝いをしたのを覚えています。たまに、祖父に連れられて、酒造りの見学に行きましたが、勝手に蔵の中には入ってはいけなかったと思っていました。

A

Q

蔵元で育った幼少期の思い出は



灘菊酒造株式会社 代表取締役社長・杜氏

かわ いし み さ
川石 光佐 さん

プロフィール

- ・2001年 東京農業大学農学部 醸造学科 卒業
 - ・南部杜氏 鎌田勝平氏のもとで3年間修行
 - ・2004年 酒造年度(7月～翌6月)より 杜氏就任
 - ・2008年 厚生労働大臣認定酒造 技能士1級認定
 - ・2010年 社団法人南部杜氏組合 杜氏試験合格
 - ・2020年 代表取締役社長に就任
- ※女性では全国3人目 西日本では初めての南部杜氏
※兵庫県内唯一の女性杜氏

A

Q

女性の視点で
大切にされていることは

「日常に日本酒を」が私の酒造りのテーマです。日本酒が特別なものにならず、気軽に家庭で飲んでもらいたいと思います。食卓に日本酒の瓶を置いた時に、日常の食卓が華やぐイメージの商品造りを大切にしています。酒造りは力作業のイメージがありますが、衛生管理が非常に大事で、きめ細やかで繊細な女性が活躍できる仕事も多くあります。女性が現場に入ることで、蒸米を運ぶ時は台車を活用したり、蔵の

A

Q

今後の活動の抱負をお聞かせください

4月から父より事業を承継し、杜氏として酒造りを担いながら、会社の代表として灘菊酒造を守り続けたいと思っています。新型コロナウイルスの影響で日本酒業界も大打撃を受けています。コロナ収束後には人々の考えや行動が大きく変わると予想される中、日本酒がどのような位置で人々の中にあるに続けられるかを模索しています。私が18年間酒造りに携わる中で常に感じることは「日本酒は美味しいもの、楽しいもの、美しいもの」であり、この部分は永遠に変わらないと信じています。日本酒を通して、人々が明るい気持ち・安らげる気持ちになれるよう今後も努力し続けていきたいと思っています。

A

Q

印象的な出来事は

酒造りを始めた頃より大きな目標であった「全国新酒鑑評会」で金賞を受賞したことです。この鑑評会は日本で最も歴史と伝統と名誉あるコンクールとされ、日本酒の最高峰「大吟醸」が出品されます。前任の杜氏が吟醸酒造りに心血を注ぎ、私がバトンを引き継ぎました。私にとってはハードルが高く、途中あきらめたいと何度も思いましたが、その度に吟醸酒を造るための知識を深め、去年初めて受賞できた時は本当にうれしかったです。

多様性のなさは 同質性のリスクにつながる

昭和女子大学 客員教授
相模女子大学 特任教授

白河 桃子 さん

ジェンダーギャップ 指数121位の理由

日本のジェンダーギャップ指数は145カ国中121位と過去最低を更新中です。なぜジェンダーギャップが注目されるのでしょうか？

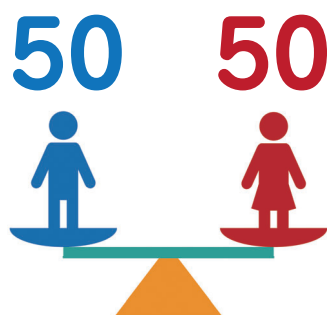
それはリスクがあるからです。極端に「同質性」の高い場には「見落とし」が発生しがちです。私はこれを同質性のリスクと呼んでいます。例えば男女混合チームで作った特許の方がその後稼げる特許になっているという研究があります。スプツニ子さんが「男性が多いテクノロジー業界の状況」について書いていました。「研究の世界でも、ビジネスの世界でも、『みんなを幸せにしたい』という言葉はよく聞く

けれど、『みんな』って誰なんでしょう？」

理系エンジニアは男性中心の世界。これでは「みんな」と言っても取りこぼしが起きる。

女性が少ないのは、女性エンジニアが少ないからでしょうか？

かつて米国のオーケストラの採用者の女性比率は5%。しかし現在は35%になっています。この拡大をもたらしたのは、採用試験で性別を含めて



誰かわからない状態にした「ブラインドオーディション」を採用したからです。

人口比率と同じ

5対5を実現しているところ

最後に提案です。明日からできることは、あらゆる場の女性の比率を「本来なら人口の比率で5対5のはず」という目で見直すこと。英国では2018年からBBCが50対50プロジェクトをやっています。BBCは日本のNHKのような公共放送です。だからこそ「みんな」を反映していないといけないのです。無数に開かれるシンポジウムの登壇者も、男性ばかりではないでしょうか？男性登壇者ばかりのパネルディスカッションのこ



プロフィール

東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒業後、住友商事などを経て執筆活動に入る。内閣官房「働き方改革実現会議」有識者議員、内閣府男女共同参画局「男女共同参画会議専門調査会」専門委員などを務める。著書に『ハラスメントの境界線 セクハラ・パワハラに戸惑う男たち』（中公新書ラクレ）、『御社の働き方改革、ここが間違ってます！ 残業削減で伸びるすごい会社』（PHP新書）など25冊以上がある。

とを「Mane」というそうです。

政府をはじめ、さまざまな「委員会」が毎日開催されていますが、その委員の割合も5対5を意識してほしい。行政には特別職というものがあります。副知事や教育長などは、首長が指名し議会の同意を得て選任されます。各首長さんは、ぜひ女性の副知事や教育長を立ててください。女性の県教育長は2名しかいません。広島県の平川理恵さんが着任してから、「セクハラは許しません」と明言されました。あつという間に学校でのセクハラが減ったという実績もあります。女性に下駄を履かせるのではなく、「みんな」のためにより良い結果を得るために、あしたから5対5を意識してほしいのです。



OS入れ替えて、 父親であることを楽しもう

NPO法人ファザーリング・ジャパン 代表理事

安藤 哲也 さん

育児って 義務ではなく権利

育児に積極的な男性が増えました。「イクメン」という言葉も定着し、子どもを抱っこしたり、連れて歩く男性をよく見かけるようになりました。しかしまだ国の調査でも、父親の一日の平均育児時間は母親の四分の一以下です。その差の理由はいわゆる「ジェンダーギャップ」で、社会全体に「古典的な男女役割分担意識」が根強くあるからだと言われます。「外で働いて収入を上げ家族を養うこと」が父親の役割で、「育児や家事は母親がやるもの」と思いこんでいる人が少なからずいるのです。

そういう私も若い頃は好きな仕事に没頭していました。でも23年前に娘が生まれたとき、直感的に「育児って義務ではなく権利なのではないか」と思ったのです。仕事も大事だけれど、子どものいる人生も目いっぱい楽しみたい。主体的に育児をすることで父親として成長し、家族を幸せにできるのではないかという予感があったのです。そのためにはまず「男は仕事、女が家事育児」といった古い価値観を捨てる。意識改革つまり自分の中のOS（オペレーティング・システム）を入れ替えねばと悟りました。



子どものいる 暮らしを楽しむ

OSが入れ替わると、男性も「仕事だけ」の生活から脱却できます。仕事とのバランスを考え、なるべく早く帰宅したり土日でも育児家事を妻と協業したりするようになります。父親セミナーで出会う乳幼児のパパはおしなべて意識が高いですが平日は仕事で帰宅が遅く、「週末に、子どものハートをつかめる方法を教えて欲しい」という質問が出たりします。そんなものはありません。子どもと良好な関係を築きたいのであれば、労を惜しまず毎日少しの時間でもいいから子どもに関わることが肝心です。



プロフィール

1962年生。二男一女の父親。2006年に父親支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパンを設立。厚生労働省「イクメンプロジェクト推進チーム」顧問、につぼん子育て応援団共同代表等も歴任。著書に「パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方（NHK出版）など多数。※ファザーリング・ジャパンは平成30年度、内閣府主宰の『子供と家族・若者応援団表彰～子育て・家族支援部門』にて、「内閣総理大臣表彰」を受賞。

労働時間が長いパパでも上手に関わることができる方法があります。それは「朝の育児」です。朝ちよっと早く起きて、子どもと散歩したり、会話するだけで子どもは喜び、関係性は深まります。またパパ自身の生活も規則正しくなり、健康になって仕事の能率が上がった人もいます。

OSを入れ替えて少し働き方を見直し、子どものいる暮らしを楽しむことで父親も豊かな人生を送ることが出来ます。自分の人生を肯定する父親の笑顔こそが、夫婦のパートナーシップや子どもの自尊心を育みます。「父親であること」をもっと楽しみましょう。



女性の人権を守るために DV防止に向けて

お茶の水女子大学 名誉教授

戒能

民江 さん



プロフィール

お茶の水女子大学名誉教授。専門はジェンダー法学・女性に対する暴力研究。国の委員会、DV、若年女性への性暴力、婦人保護事業などの検討に取組む。ジェンダー法学会会長などを歴任。現在、性暴力禁止法をつくろうネットワーク共同代表。主著に、戒能民江編著『危機をのりこえる女たち—DV法10年、支援の新地平へ』（2013年）

相次ぐ児童虐待死事件

近年、児童虐待死事件が相次いでいます。多くの人びとが心を痛めたに違いありません。2019年の野田市中心愛さん事件の裁判報道では、最後まで暴力を否定し続けた父親の姿は衝撃を与えました（懲役16年）。昨年6月に母親も「傷害ほう助」罪で有罪となりました（執行猶予付きの懲役2年6月）。2018年に起きた東京目黒区結愛ちゃん事件でも、母親は「保護責任者遺棄致死」罪に問われ懲役8年の実刑になりました（父親は懲役13年）。心愛さん事件では「夫の虐待を見て見ぬふりをした」と、結愛ちゃん事件では「夫の暴行を容認し、病院にも連れて行かなかった」と、いずれも母親は判決で非難されました。

一体として起きるDVと児童虐待

私は事件の報道を目にして強い違和感を覚えました。この二つともDV事件であり、DVと児童虐待は一体として起きることがほとんど理解されず、母親の責任だけが報道では強調されていたからです。さらに、DV防止法制定から20年近くになるのに、DVの本質やDVの影響についても認識の不十分さを痛感させられました。結愛ちゃん事件の母親は、警察に「あざがなければDVと言えない」と言われ、心を閉ざしてしまいました。母親は夫から「しつこいが悪い、言い訳するな」などと説教され続け、苦しい思いをしながらも自分がダメだからと思うしかなかったのです。結局、心理的DV被害は児童相談所や病院に理解されず、いつも「様子を見ましょ」と

言われるだけでした。DVが暴力を使った支配であること、つまり、DVが家族の行動も感情もコントロールして加害者の思い通りにしてしまうことが、十分に理解されていませんでした。

DV理解を進めて女性の人権を守る

DVはそもそも隠された暴力であり、被害者自身もDVだと気づかないことがあります。DVは殴る、蹴るなど目に見える暴力だけではなく、威圧的態度や言動、行動規制、無視や人格否定、無能呼ばわり、外出に許可がないなどの精神的暴力や生活費を渡さない、年金を取り上げるなどの経済的暴力、子どもの目の前で精神的に痛めつけることもDVであり、多くの女性が悩みながら誰にも言えずにいるかも

配偶者からの暴力などで悩んでおられる方へ 相談機関のご案内

自分だけの力ではどうしても解決の糸口が見出せなかったり、誰に相談して良いかわからないときなど、ひとりで悩まずに気軽にお電話ください。無料相談です。秘密は厳守します。

兵庫県立女性家庭センターでは、「**配偶者暴力相談支援センター**」として配偶者からの暴力に関する相談を受け付けています。

電話相談受付時間：毎日 9：00～21：00 土日・祝日も行っています。

電話番号：078-732-7700

また、**兵庫県立男女共同参画センター・イーブン**でも情報提供や心のケアなどの相談を受け付けています。

電話相談受付時間：月～土曜日 9:30～12:00 13:00～16:30
(祝日及び年末年始を除く)

電話番号：078-360-8551



しれません。新型コロナウイルス感染症拡大防止で社会的不安が高まり、DV増加が危惧されます。「人間の尊厳」を守るために、DV理解をさらに深めるとともに、被害を受けた女性や子どもを孤立させてはなりません。

女性が能力を活かして、活躍できる社会へ

株式会社マザーネット 代表取締役

上田 理恵子 さん

出産後に働くお母さんに
やさしくない社会を実感して

私が大学を卒業して大手空調メーカーに入社したのは、男女雇用機会均等法が施行される2年前の1984年。事務系・技術系大卒社員71人中、女性たった2人でした。配属された設計部で、業務用食器洗浄機の開発を担当。大卒女性の設計部への配属は初めてでした。業者の男性の方々と図面の打ち合わせをする際、女性が担当であることがわかると、いやな顔をされることの方が多かったのを覚えています。

24歳で結婚。不妊治療を経て、30歳で長男を出産。会社では育児休業取得第一号でした。当時から保育所入所は厳しく、第8希望の家庭保育所に入所

させた時、長男は生後4か月でした。会社を休んでいる間に上司が変わり、復帰した当日、上司に言われたのは、「あなた



はブランクが大きすぎる。だから仕事をはずれてもらいます」という一言でした。泣き叫ぶ子どもを保育所に預けての出勤。子どもに恥ずかしい仕事をしたという思いがあるのに、会社すると仕事がありません。後輩の男性の資料のコピーを手伝ったり、会議のためのお茶を180杯入れた日もありました。それでも、「どんな仕事か



プロフィール

17年間勤務した会社を退職し、仕事と育児の両立に悩んだ自身の体験を生かしてワーキングマザーを総合的に支援する会社「マザーネット」を設立。急な子どもの発熱や残業時にも対応するケアリスト派遣業務を中心に、保活コンシェルジュサービスや、育児休暇復帰セミナーなど、ワーキングマザーを総合的に支援する事業を展開している。



人たちの意識も確実に変わったと感じています。

ぜひ女性であることに誇りを持ち、自らの志で、自分の人生を切り拓いていってほしいと思います。そのことを応援する機運は高まり、体制は整いつつあるのですから。

仕事と育児の両立支援の体制が整いつつある時代を迎えて

32歳で次男を出産。次男が2歳になったころ、ようやく担当の仕事をいただけるようになりました。それは、営業の仕事でした。お客様との大切な約束がある時に限って、子どもが発熱。お客様の会社の近くの喫茶店に熱のある子どもを連れていき、母にかけつけてもらって、仕事をしたこともありました。本当に綱渡りの日々だったのを覚えています。

あれから約25年。企業もそこで働く



沈黙を強いる 社会を変えたい

フリーアナウンサー

数本

雅子 さん



プロフィール

日本テレビアナウンサー、記者を経てフリー。ハンセン病をテーマに『女子アナ失格』（新潮社2005）を出版以来、全国の自治体、学校などで講演多数。令和元年度人権擁護功労賞特別賞（法務大臣賞）受賞。現在は、自身の性的虐待の体験を公表し、一般社団法人Springで刑法改正に向けた活動を行う。

女性に何の罪があるのか

1996年らい予防法が廃止された頃でした。テレビでは放送禁止に等しい扱いでしたが、私はこの問題から逃げるわけにはいかないと思い、アナウンサーから報道記者になりました。

私が取材したある女性は、療養所に入ったばかりの16歳の時に、自分の父より年上の男性と園内結婚させられることになり、草むらで性交を強要され、妊娠しました。そして、「おぎゃー」と生きて産まれた子どもを看護師によって目の前で殺されるという経験をしていました。それでも、女性は「私が悪いんです。子どもを作ったはいけない療養所で子どもを作った、私の罪なんです」と大粒の涙を流しました。私は、激しい憤りを覚え、しばらく一緒に

に泣きました。女性に何の罪があるというのでしょうか。この証言をなかったことになってさせない。その時の強い思いは今も変わりません。

今も家族を名乗れない

たまたま、らい菌に感染し発病してしまった——。戦後すぐに特効薬もでき、完治すれば、元の生活に戻れそうなものですが、そうはいきませんでした。法華経の経典に「前世で法華経信者の悪口を言ったから、現世でらいになる」という意味の文言が書かれていることから「業病」「天刑病」とされてきました。また日本古来の「穢れ」と結びつけられてきました。さらに戦前、優生思想が広まり、らい患者排除の風

潮を国が後押ししていたのです。

現代から見ると、それらは危険思想であり、デマ、迷信だとわかるでしょう。しかし、長年にわたってハンセン病の恐怖が煽られ、刷り込まれた結果、いまだにハンセン病を忌み嫌う人がいるのです。去年、国は元患者の家族に対しても積年の被害を認め、家族補償法が成立しました。しかし、自分は家族だと名乗り出る人が一体何人いるでしょう。今も、差別されることへの恐れから、病歴をもつ家族の存在をひた隠しにし、そのことで自分を責め続けている人がいるのです。何の落ち度もない被害者を虐め、沈黙を強いる社会を私は変えたいのです。



『ペトルーニャに祝福を』

東方正教会を信仰する東欧の国々で広く行われる、年に一度の「十字架投げ」。神父が川に十字架を投げ、男たちが川へ飛び込みます。最初に十字架をつかんだ者が一年の幸福を得ると信じられているのです。

本作の主人公ペトルーニャは就職の面接でセクハラを受けた上に不採用となった帰り道、この儀式に遭遇します。大学を出たものの、32歳になる今まで就職できず、恋愛経験もない。そんな彼女の前に十字架が流れてきます。思わず川に入り十字架をつかんだ彼女に、「女が取るのは禁止だ」と男たちが詰め寄ります。それがこの儀式の伝統だったのです。彼女は十字架を返さず、ついに警察署に連行されてしまいます。男たちは権威や暴力を用いてペトルーニャを非難しますが、その度に彼女は強く成長していきます。

「伝統だから」という他に何の根拠もなく女性を排除する習慣は世界中に残っています。男性の認める形でしか女性が幸福をつかめない社会。それを変えていく力が女性にはあるのです。

■監督:テオナ・ストゥルガル・ミテフスカ

■2019年 北マケドニア・フランス・ベルギー・クロアチア・スロヴェニア合作映画、100分

■配給:アルバトロス・フィルム ■シネリーブル神戸で公開予定 ■お問い合わせは、078(334)2126

映画紹介



© Pyramide International



「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～



- 募集部門：小説・随想・詩・創作童話
- 応募条件：兵庫県内に在住、在勤、在学の方
- 応募作品：インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品
■詳細については、協会ホームページをご覧ください、お電話（下記参照）でお尋ねください。
- 応募方法：郵送で受け付け
- 募集期間：令和2年6月1日(月)～9月10日(木)まで（消印有効）

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
(公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係



新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染された方々やその家族、濃厚接触者、医療従事者などに対する誹謗中傷やインターネット上での心ない書き込みなどが見受けられますが、不確かな情報や誤解に基づく不当な差別、偏見、いじめ等があってはなりません。

新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を入手し、人権侵害につながることをのさないよう、冷静な行動をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症に関することについて、詳しくはこちら

【厚生労働省ホームページ】

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>



【兵庫県ホームページ】

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/index.html>



人権に関する相談窓口はこちら

【法務省ホームページ】

http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html



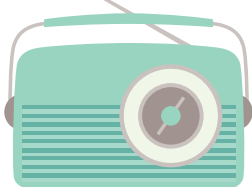
イベント中止情報

タイトル	日時	内容等	問い合わせ等
加古川市 人権学習専門講座	すべて中止	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止いたします。来年度は人権学習専門講座を開催予定ですので、参加をお待ちしております。	加古川市人権文化センター TEL 079(451)5029 FAX 079(426)0062

ラジオ関西

「谷五郎の笑って暮らそう」

(毎週火曜日10:00～13:00)で、12:35頃から「きずな」の記事等を紹介しています。



前任者より、きずなの編集を引き継ぎました鄒(すう)と申します。

女性が活躍している場面をよく目にするようになりました。私も女性として奮起できるよう頑張りたいと思います。

人と人のつながりを大切に編集を心がけ、取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

(鄒)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

兵庫県人権啓発協会

検索



(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

2020(令和2)年6月発行